

『和泉式部日記』 引歌・漢籍索引 (三)

渡 辺 開 紀

本稿は「『和泉式部日記』 引歌・漢籍索引 (二)」(『滝川国文』36、平成三二・三)、同(二)「(國學院大學北海道短期大学部紀要) 38、令和三・三、以下「前稿」の補完を企図し作成したものである。索引を編むにあたっての方針は〈凡例〉に記す通りとなる。

〈凡例〉

一、本稿は、前稿の和歌索引として作成した。
一、五十音順に並べ、和歌(歌集名・詠者名)―注記項目番号(ゴシック体)―注釈書〔略号〕の順に示した。「詞書」は紙幅の都合で割愛する。
一、和歌の引用は『新編国歌大観』(古典ライブラリーWEB版)、『私家集大成』(古典ライブラリーWEB版)に拠る。なお、出典として頻出する『私家集大成』の「和泉式部集I〜V」の底本は次の通りである。

- I 榊原家本「和泉式部集」
- II 榊原家本「和泉式部集続集」
- III 未刊稀観本叢書「和泉式部集」
- IV 静嘉堂文庫蔵五二一・一九「和泉式部集」

V 伝行成筆和泉式部統集切「和泉式部集」(新編増補)

- 一、注記項目番号(ゴシック体)は前稿の見出し番号に対応する。注釈書〔略号〕も前稿を参照されたい。
 一、和歌索引のあとに「漢籍・仏典出典一覧」と前稿の「正誤表」を付した。

和歌索引

あ

- あかさりし中なか花のをりよりもたちうき物は夏の木の下(和泉式部集Ⅱ・三三七)―4〔全講〕
- 暁のしぎのはねがきももはがき君がこぬ夜は我ぞかずかく(古今集・恋五・七六一・よみ人しらず)―149〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕
- 〔考注〕〔叢書〕〔講談〕〔全書〕〔最新〕〔大系〕〔全集〕〔集成〕〔学術〕〔対校〕〔新書〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- あかなくにまだきも月のかくるるか山のはにげていれずもあらなむ(古今集・雑上・八八四・なりひらの朝臣/伊勢物語・八二段)―51〔全釈〕
- アキカセノハケシキ山ニイリシヨリアユフクサハニツケテカナシモ(道命法師集・一一六)―86〔角川〕
- 秋くれど色もかはらぬときは山よそのもみぢを風ぞかしける(古今集・賀・三六二)―128〔角川〕
- 秋ならでおく白露はねぎめするわがた枕のしづくなりけり(古今集・恋五・七五七・よみ人しらず)―96〔角川〕
- 秋の夜のあけての後の悔しきは 浦島のこかはこにやあるらん(師輔集・二一・すけなりかむすめに)―92〔角川〕
- あけぬ夜にやがてまどへる心にはいづれを夢とわきて語らむ(源氏物語・明石)―102〔校定〕
- あけぬよのこちながらにやみにしをあさくらといひしこゑはきさきさや(後拾遺集・雑四・一〇八一(二〇八二)／実方Ⅱ・一二五／実方Ⅲ・一九七)―102〔角川〕、121〔全講〕
- あさがらすはやくななきそわがせこがあさけのすがたみればかなしも(万葉集・三〇九五(三一〇九))―47〔校定〕
- あさち原みるにつけてそおもひやる いかなる里にすみれつむらん(和泉式部集Ⅰ・七〇三)―4〔考注〕〔全講〕〔新典〕

- あしねはふうきはうへこそつれなけれしたはえならず思ふ心を（拾遺集・恋四・八九三・よみ人しらず／拾遺抄・恋下・三三二）―74〔笠間〕
- あしわくる程にきにけりたつ浪のをとにきゝてしこやなにはかた（和泉式部集Ⅰ・六六六）―129〔全講〕
- あだなりとなにこそたてれ桜花年にまれなる人もまちけり（古今集・春上・六二・よみ人しらず）―60〔校定〕
- あなこひし今も見てしか山がつかきほにさける山となでしこ（古今集・恋四・六九五・よみ人しらず）―154〔詳解〕〔岩波〕〔昭完〕〔校定〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔講談〕〔全書〕〔大系〕〔全講〕〔全集〕〔集成〕〔対校〕〔新書〕〔完訳〕〔訳注〕〔学術〕〔新典〕〔ほる〕〔全釈〕〔新編〕〔角川〕〔笠間〕
- あはれともいはまし物を人のせしあかつきをきはくるしかりけり（和泉式部集Ⅱ・四四五）―48〔考注〕〔学術〕
- あひ見てののちの心にくらぶれば昔は物もおもはざりけり（拾遺集・恋二・七一〇・権中納言敦忠／拾遺抄・二五七／敦忠集・一四三）―118〔校定〕
- あひ見まく星はかずなく有りながら人に月なみ迷ひこそすれ（古今集・雑躰・一〇二九・きのありとも）―14〔全注〕
- あふことのあはぬよながらあけぬれば我こそかへれこころやはゆく（伊勢集Ⅰ・五一／新古今・恋三・一一六八・伊勢）―25〔学術〕〔新典〕〔全注〕〔角川〕、52〔学術〕、60〔学術〕〔全注〕〔角川〕
- あふことのむなしき空のうき雲は身をしる雨のたよりなりけり（新古今集・恋二・一一三四・惟明親王）―36〔校定〕
- 相坂のゆふつけになく鳥のねをききとがめずぞ行きすぎにける（後撰集・雑二・一一二六・としゆきの朝臣）―29〔全注〕
- あらざらんこのよのほかのおもひいでにいまひとたびのあふこともがな（後拾遺集・恋三・七六三・和泉式部／和泉式部集Ⅰ・七四四、和泉式部集Ⅲ・六二）―77〔学術〕〔新編〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- ありぬやと心みがてらあひ見ねばたはぶれにくきまでぞこひしき（古今集・雑躰・一〇二五・よみ人しらず）―27〔学術〕
- いかでかは鳥のなからむ人知れず思ふ心はまだ夜深きに（伊勢物語・五三段）―50〔最新〕〔全講〕〔全釈〕
- いかならむ巖の中にすまばかは世のうき事のきこえこざらむ（古今集・雑下・九五二・題しらず）―101〔校定〕、133〔校定〕〔詳解〕〔修文〕〔新註〕〔叢書〕〔最新〕〔講談〕〔全書〕〔大系〕〔全集〕〔集成〕〔新書〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔学術〕〔ほる〕〔新編〕〔全講〕〔全釈〕〔角川〕〔全注〕〔笠間〕

- いく世しもあらじわが身をなぞもかくあまのかるもに思ひみだるる〔古今集・雑下・九三四・よみ人しらず〕—61〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕
- 〔考注〕〔最新〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔学術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕、94〔角川〕
- いさやまだこひてふ事もしらなくにこやそなるらんいこそねられね〔拾遺集・恋四・八九四・よみ人しらず〕—25〔学術〕
- いさやまだ人の心も白露のおくにも袖のみぞひつ〔後撰集・恋五・九六四・よみ人しらず〕—25〔学術〕
- いせのあまのしほやき衣なれてこそ人のこひしきこともしらるれ〔六帖・三二八七・しほやきごろも〕—119〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔最新〕〔全書〕〔大系〕〔全集〕〔対校〕〔集成〕〔新書〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔学術〕〔ほる〕〔新編〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- いそのかみふるき宮この郭公声ばかりこそむかしなりけれ〔古今集・夏・一四四・そせい〕—8〔角川〕
- いたづらにすぐる月日をたなばたのあふよのかずと思はましかば〔拾遺集・秋・一五一・恵慶法師／拾遺抄・九六〕—136〔昭完〕
- いつとてもあはれとおもふをぬぬるよの月はおほろけなくぞ見し〔新古今集・恋四・一二五八・中務／中務集・一八六〕—108〔学術〕
- いつとてもこひしからずはあらねども秋のゆふべはあやしかりけり〔古今集・恋一・五四六・よみ人しらず／小町集I・一〇〇〕—69〔詳解〕〔全書〕〔対校〕〔学術〕〔集成〕〔完訳〕〔新編〕〔角川〕〔笠間〕
- いづ方に行き隠れなん世の中に身のあればこそ人もつらけれ〔六帖・二二二・「恨みず」／拾遺集・恋五・九三〇・よみ人しらず〕—35
- 〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔角川〕〔笠間〕
- いで人は事のみぞよき月草のうつし心はいろことにして〔古今集・恋四・七二一・よみ人しらず〕—70〔校定〕
- いとへともきえぬ身そうきうらやまし風のまへなるよひのともし火〔和泉式部集II・一三四〕—124〔詳解〕〔新註〕〔考注〕〔全集〕〔全講〕〔全釈〕〔角川〕
- いのちとてつゆをたのむにかたければ物わびしらになくのべのむし〔古今集・物名・四五一・しげはる〕—21〔昭完〕
- いはばしのよるの契もたえぬべしあくるわびしき葛木の神〔拾遺集・雑賀・一二〇一・春宮女蔵人左近／拾遺抄・四六九／小大君集・一二一〕—121〔全講〕〔最新〕
- いはみがたうらみぞふかきおきつなみうちよするもにうづもるのみは〔古今六帖・一八五五・「藻」〕—135〔詳解〕〔全講〕

○岩見瀉なにかはつたきつらからば恨みがてらに來ても見よかし（拾遺集・一二六二・雜恋・よみひとしらず／拾遺抄・四五三／一条撰政御集・一九）—135〔昭元〕

○今こむといひしばかりに長月のありあけの月をまちいでつるかな（古今集・恋四・九六一・そせいほうし／素性集Ⅰ・二八、素性集Ⅱ・一九、素性集Ⅲ・一二）—79〔角川〕、81〔學術〕、89〔角川〕

○今はとも いはざりしかど やをとめの たつやかすがの ふるさとに …… けふみづぐきの あとみれば ちぎりし事は 君も又 わすれざりけり しかしあらば たれもうきよの あさつゆに ひかりまつまの 身にしあれば おもはしいかで とこ夏の 花のうつろ ふ 秋もなく おなじあたりに すみの江の きしのひめ松 ねをむすび 世世をへつつも しもゆきの ふるにもぬれぬ なかとなりなむ（拾遺集・雜下・五七三・よみ人しらず）—39〔學術〕〔全注〕

○今更になにおひいづらむ竹のこのうきふししげき世とはしらずや（古今集・雜下・九五七・凡河内みつね）—163〔ほる〕

○いもかいゑちわれわれすれめやしひきの山かきくもりゆきはふるとも（家持集・Ⅱ・一四八）—19〔學術〕

○うかる身のあめのしたにもふれはなを人は身をさへしらせてし哉（和泉式部集Ⅰ・八〇七）—36〔全講〕

○うつつにてゆめばかりなるあふことをうつつばかりのゆめになさばや（後拾遺集・恋二・六七五・西宮前左大臣）—151〔全注〕

○うのはなの影にかくれて今日までそ 山時鳥声はをしまむ（元真集・一八〇）—22〔笠間〕

○うめがえになきてうつろふうぐひすのはねしろたへにあわゆきぞふる（万葉集・卷十・一八四四（一八四〇））—106〔校定〕

○おきつなみ あれのみまさる 宮のうちは としへてすみし いせのあまも 舟ながしたる 心地して よらむ方なく かなしきに ……（古今集・雜躰・一〇〇六・伊勢）—63〔學術〕〔新編〕

○おきながらあかしつるかなともねせぬかものうはげのしもならなくに（後拾遺・恋二・六八一・和泉式部／和泉式部集Ⅱ・二三八、和泉式部集Ⅲ・一〇三、和泉式部集Ⅳ・一四六）—109〔全講〕

○おく霜の暁おきをおもはずは君がよどのによがれせましや（後撰集・恋五・九一四・よみ人しらず）—48〔全注〕〔角川〕

○おく露のなかにもいとみえしかばおなじえだにとおもふばかりぞ（宇津保物語・沖つ白波）—9〔全注〕

○おと、ひもきのふもまちしほと、きすけふさゑなかなそや世中（長能集・二一）—140〔角川〕

- おとは山けさこえくれば郭公こずゑはるかに今ぞなくなる（古今集・夏・一四二・きのとものり）―23〔岩波〕〔新註〕〔全注〕〔笠間〕
- おなじえをわきてこのはのうつろふは西こそ秋のはじめなりけれ（古今集・秋下・二五五・藤原かちおむ）―9〔学術〕、23〔考注〕
- おなじえをわきてしもおく秋なればひかりもつらくおもほゆるかな（大和物語・五一段）―9〔学術〕
- おのづからいくよをふともたまくらあかぬ契りにひちやくたさん（夫木集・一五三九六・信実朝臣）―96〔校定〕
- 大鳥の羽に やれな 霜降りり やれな 誰かさ言ふ 千鳥ぞさ言ふ ……（風俗歌「おほとり」）―106〔学術〕、122〔岩波〕〔叢書〕〔最新〕
- 〔全講〕〔全集〕〔新書〕〔完訳〕〔新典〕〔ほる〕〔訳注〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕〔講談〕〔学術〕〔全書〕〔集成〕
- おほつかなたれそむかしをかけたるはふるに身をしる雨かなみたか（和泉式部集I・二〇四）―36〔全講〕
- 思ひやるころやゆきて人しれずきみがしたひもとさわたるらん（新撰和歌・三三四）―115〔笠間〕
- 思ひやる心はつねにかよへども相坂の関こえずもあるかな（後撰集・恋一・五一六・三統公忠）―73〔全講〕
- おもひきやありて忘ぬをのか身をきみかかたみになさむ物とは（和泉式部集II・五二）―64〔全注〕
- おもへども人めづつみのたかければ河と見ながらえこそわたらね（古今集・恋三・六五九・よみ人しらず）―45〔詳解〕〔修文〕〔考注〕〔最新〕〔全講〕〔学術〕〔全注〕
- おもほえず涙の川にぬれきぬを 我よりほかにたれかきるへき（馬内侍集・四七）―103〔学術〕〔ほる〕

か

- 篝火にあらぬわが身のなぞもかく涙の河にうきてもゆらむ（古今集・恋一・五二九・よみ人しらず）―61〔考注〕〔全講〕
- かきくらしくもまもみえぬさみだれはたえずものおもふわがみなりけり（後拾遺集・恋四・八二九・藤原長能）―33〔全注〕
- かくばかりへがたく見ゆる世の中にうら山しくもすめる月かな（拾遺集・雑上・四三五・藤原たかみつ／拾遺抄・雑下・五〇〇）―56〔竹野〕〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔学術〕〔集成〕〔完訳〕
- 〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- 霞たちこのめもはるの雪ふれば花なきさとも花ぞちりける（古今集・春上・九・きのつらゆき）―159〔学術〕

- かすかすにおもひおもはずとひがたみ身をしる雨はふりぞまされる（古今・恋四・七〇五・在原業平朝臣／伊勢物語・一〇七段／六帖・四七四・「雨」—36〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔学術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- 風ふけばまづやぶれぬるくさのにはよそふるからにそでつゆけき（後拾遺集・釈教・一一八九・前大納言公任）—8〔全注〕
- かたらふにかひもなければおほかたは 忘れなむとそいふとこそみれ（和泉式部集Ⅱ・五〇九）—12〔全講〕〔全注〕
- かたらへはなくさみぬらん人しれすわか思ふ事を誰にいまし（和泉式部集Ⅱ・四四七）—11〔新典〕〔全注〕
- かたらへはなくさむ事も有物を忘れやしなんこひのまきれに（和泉式部集Ⅰ・一七三、和泉式部集Ⅱ・五七〇、和泉式部集Ⅲ・一二三、和泉式部集Ⅳ・一六八）—11〔全講〕〔新典〕〔全注〕
- 葛木やくめぢにわたすいはばしの中中にも帰りぬるかな（後撰集・恋五・九八五〔九八六〕・よみ人知らず）—121〔考注〕〔全書〕〔全注〕
- 葛木や我やはくめのはしづくりあけゆくほどは物をこそおもへ（拾遺集・恋二・七一九・よみひとしらず）—121〔全講〕
- 河と見てわたらぬ中にながるるはいはで物思ふ涙なりけり（後撰集・恋二・六三六・よみ人知らず）—45〔全講〕
- かばかりにしのぶるあめを人とはばなににぬれたるそでといふらん（後拾遺集・雑二・九二五〔九二六〕）—127〔全注〕
- かほとみてゆかぬころをながむればいとどゆゆしくいひやはつべき（蜻蛉日記・上巻）—45〔全注〕
- 帰りにし雁ぞなくなるむべ 人はうき世の中をそむきかぬらん（拾遺集・雑秋・一一〇四・よしのぶ／能宣集Ⅰ・八一、能宣集Ⅲ・一一九）—70〔詳解〕〔新註〕〔考注〕〔岩波〕〔叢書〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔対校〕〔講談〕〔訳注〕〔全釈〕〔全注〕〔笠間〕
- かほるかはそなからそれにあらぬかな花橘のみなりけり（和泉式部集Ⅰ・七〇八）—7〔考注〕
- 神な月 しくれふりくる み山より 風さへことに をくれねは よものこのはも のこりなく なかむるそらも はれすのみ くもりわたれば …… とはすかたりを あつめたるなり（曾禰好忠集・二七七）—141〔角川〕
- 神な月ふりみふらずみ定なき時雨ぞ冬の始なりける（後撰集・冬・四四五・よみ人しらず／六帖・二〇九「はつふゆ」／和漢朗詠集・三五五）—85〔詳解〕〔対校〕、126〔校定〕
- 君こずはねやへもいらじこ紫わがもとゆひにしもはおくとも（古今集・恋四・六九三・よみ人しらず／六帖・六七一・「霜」、三一七七・

「むとゆひ」—126〔學術〕

○君こふる涙のここにみちぬればみをつくしとぞ我はなりぬる（古今集・恋二・五六七・寛平御時きさいの宮の歌合のうた 藤原おきか
ぜ）—59〔全注〕

○君ならてたれかはまたは山しろのふしみのさとをたちならすへき（敦忠集・二六）—132〔角川〕

○君やこむ我やゆかむのいさよひにまきのいたどもささずねにけり（古今集・恋四・六九〇・よみ人しらず／六帖・一三七〇・「と」—30
〔全注〕〔角川〕

○君をおきてあだし心をわがもたばすゑの松山浪もこえなむ（古今集・東歌〔陸奥歌〕・一〇九三）—53〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔昭完〕〔修
文〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔學術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕
〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕

○きみがためをしからざりしいのちさへながくもがなとおもひぬるかな（後拾遺集・恋二・六六九・少将藤原義孝／義孝集・一二）—146〔対
校〕〔角川〕

○草の上の露にたとへし時たにも こはたのまれしまほろしのか（和泉式部集I・一七七）—1〔考注〕〔全講〕

○暗きより暗き道にぞ入りぬべき遥に照せ山のはの月（拾遺集・哀傷・一三四二・雅致女式部／和泉式部集I・一五〇、八三四（重出）、和
泉式部集III・六六、和泉式部集IV・二五七）—77〔詳解〕〔修文〕〔全書〕〔全集〕〔対校〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕

○くれれ竹の 世世のふること なかりせば いかほのぬまの いかにして 思ふ心を のばへまし …… 君がやちよを わかえつつ見
む（古今集・雑躰・一〇〇三・壬生忠岑）—83〔學術〕、163〔考注〕〔全講〕〔學術〕〔全注〕〔角川〕

○けさきなきいまだたびなる郭公花たちばなにやどはからなむ（古今集・夏・一四一・よみ人しらず／六帖・四二五七・「橘」）—8〔學術〕

○こえにけるなみをばしらすですゑの松ちよまでとのみたのみけるかな（後拾遺集・恋二・七〇五・藤原能通朝臣）—54〔校定〕〔全注〕

○こころにはしたゆく水のわかかへりいほで思ふぞいふにまされる（六帖・二六四八・「いほでおもふ」）—114〔學術〕

○こゝろみにいさかたらはん世間のこれになくさむ事やあるとも（和泉式部集I・六九三）—59〔全注〕

○心みに猶おりたたむなみだがはうれしきせにも流れあふやと（後撰集・恋二・六一二・橘敏仲）—59〔全注〕

○ことわりのしぐれの空は雲間あれどながむる袖ぞかわくまもなし〔紫式部日記〕—83〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔最新〕〔対校〕〔学術〕〔全注〕
○ことわりやいかでかしかのなかざらんこよひばかりのいのちとおもへば〔後拾遺集・雑三・九九九（一〇〇〇）〕・和泉式部／和泉式部集
Ⅲ・一二二、和泉式部集Ⅳ・二二一—113〔全注〕

○ことわりやうらむることも秋かぜのそよそよをぎのはにぞおどろく〔六帖・三七二〇〕・「荻」—66〔学術〕

○恋しくはとぶらひ来ませちはやふる三輪のやまもと杉たてる門〔俊頼髓脳〕—148〔講談〕

○恋しくは来ても見よかしちはやぶる神のいさむる道ならなくに〔伊勢物語・七一一段〕—155〔詳解〕〔岩波〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔講談〕

〔全書〕〔最新〕〔大系〕〔全講〕〔全集〕〔学術〕〔集成〕〔対校〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔角川〕〔笠間〕

○恋といへばおなじなこそ思ふらめいかでわが身を人にしらせん〔拾遺集・恋一・六七七〕・よみ人しらず／拾遺抄・恋上・二三九—17
〔全注〕

○こひこひてまれにあふよのあかつきはとりのねつらきものにざりける〔六帖・二七三〇〕・「暁に起く」—49〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔新註〕

〔考注〕〔叢書〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔学術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕

○こひしさはおなじ心にあらずとも今夜の月を君見ざらめや〔拾遺集・恋三・七八七／拾遺抄・恋下・三六三〕／信明集Ⅰ・一一三、信明集
Ⅱ・三三三、信明集Ⅲ・六一／中務集Ⅰ・一九〇、中務集Ⅱ・二七二—90〔学術〕

○こひしさはねぬになぐさむともなきにあやくあはぬめをもみるかな〔後撰集・恋二・六七二（六七二）〕・源うかぶ—162〔学術〕

○こまならむ人はなれたりゆくへなく舟なしたるあまのはしたて〔和泉式部集Ⅰ・七五四〕—63〔全注〕

○声をえやはしのばぬほととぎすはつうの花のかげにかくれて〔新古今・夏・一九〇〕・柿本人麿—22〔校定〕

さ

○さためてそたちもよるへきよの人の あいてもあはぬものはおもへし〔長能集Ⅰ・八四〕—25〔学術〕

○五月こばなきもふりなむ郭公まだしきほどのこゑをさかばや〔古今集・夏・一三八〕・伊勢／六帖・四四三四・「ほととぎす」・伊勢／伊勢集

- I・三七四、伊勢集Ⅱ・五〇五—8〔學術〕〔全注〕、22〔岩波〕〔修文〕〔新註〕〔対校〕
- さつきまつ花橘のかをかげ昔の人の袖のかぞする（古今集・夏・一三九・よみ人しらず／六帖・四五二・「たちばな」／伊勢物語・六〇段—7〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔昭完〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔學術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- 五月雨の月かさなれり郭公めづらしからでことしだになけ（能因法師集・二四八）—26〔角川〕
- さみたれのこゑはいまやとほと、きすまつにこすゑをみぬときそなき（能宣集Ⅰ・三九六）—26〔角川〕
- さむしろに衣かたしきこよひもや我をまつらむうぢのはしひめ（古今集・恋四・六八九・よみ人しらず）—161〔全注〕〔笠間〕
- さをさせどそこひもしらぬわたつうみのふかき心をきみはしらなん（六帖・一七五五・「うみ」・つらゆき／後撰集・春下・一二七／土佐日記）—44〔學術〕〔全注〕〔笠間〕
- さ月まつ山郭公うちはおき今もなかなむこそぞのふるごゑ（古今集・夏・一三七・よみ人しらず）—8〔笠間〕
- しがのあまのしほやきごろもなれゆけどこひてふものはわすれかねつも（六帖・三二八六・「しほやきごろも」）—119〔昭完〕〔叢書〕〔講談〕
- しかばかりちぎりしものをわたりがはかへるほどにはわするべしやは（後拾遺集・五九八／大鏡／今昔物語集）—152〔學術〕
- しくれにもあめにもあらてきみこふるわかころもてのぬる、ころかな（中務集Ⅱ・二四六）—96〔學術〕〔角川〕
- しづはたに思ひみだれて秋の夜のあるもしらずなげきつるかな（後撰集・恋五・九〇二・贈太政大臣）—94〔角川〕
- しのびねをききこそわたれほととぎすかよふかきねのかくれなければ（後拾遺集・雜四・一〇九六・六条斎院宣旨）—22〔全注〕
- しほたるることをやくにて松島に年経るあまもなげきをぞつむ（源氏物語・須磨）—63〔詳解〕〔修文〕〔考注〕
- 霜がれの枝となわびそ白雪のきえぬ限は花とこそみれ（後撰集・冬・四七六・読み人しらず）—159〔角川〕
- 白浪の打ちいづるはまのはまちどり跡やたづぬるしるべなるらん（後撰集・恋四・八二八・朝忠朝臣）—10〔角川〕
- しらつゆもゆめもこのよもまぼろしもたとへていへばひさしかりけり（後拾遺集・恋四・八三一・和泉式部／和泉式部集Ⅲ・一〇六／和泉式部集Ⅳ・一四九）—1〔角川〕
- すくすくとすくる月日のおしき哉君かあるへしかたそと思ふに（和泉式部集Ⅱ・七一、和泉式部集Ⅴ・一三）—5〔新典〕〔全注〕

○すまのあまのしほやき衣をさをあらみまどほにあれや君がきまさぬ（古今集・恋五・七五八・よみ人しらず）―24〔學術〕〔全注〕

た

○たえしときこゝろにかなふ物ならば我が玉のをによりかへてまし（和泉式部集Ⅰ・七六／和泉式部集Ⅴ・二四）―146〔全注〕

○たがそでに思ひよそへて郭公花橘のえだになくらん（拾遺集・夏・一一二・よみ人しらず／拾遺抄・夏・七二）―8〔學術〕

○竜田河錦おりかく神な月しぐれの雨をたてぬきにして（古今集・冬・三二四・よみ人しらず）―126〔校定〕〔角川〕

○たねまきしわがなでしこのはなざかりいくあさつゆのおきてみつらん（詞花集・夏・七二〔七〇〕・修理大夫頭季）―149〔全注〕

○たのめこし人はつれなく秋風はけふよりふさぬ我が身かなしな（六帖・四二二・「秋の風」）―78〔學術〕〔全注〕

○たのめねば人やはうきと思ひなせどこよひもつひにまた明けにけり（玉葉集・恋二・一四〇七・永福門院）―40〔詳解〕〔対校〕〔全注〕

○玉かづら今はたゆとや吹く風のおとも人のきこえざるらむ（古今集・恋五・七六二・よみ人しらず）―28〔校定〕〔全注〕

○たれかこのかずはさだめしわれはただとへとぞおもふやまぶきのはな（詞花集・雜上・二八一・大納言道綱母）―6〔角川〕

○月よにはこぬ人またるかきくもり雨もふらなむわびつつもねむ（古今集・七七五・恋五・よみ人しらず／六帖・二八二九・「人をま

つ）―59〔學術〕、82〔角川〕

○つらきをばなぞやとおもひてわすれなばねざめのゆめもやすからましを（能宣集・四五四）―132〔笠間〕

○つらけれど人にはいはずいはみがた怨ぞふかき心ひとつに（拾遺集・九八〇・よみひとしらず）―135〔校定〕〔詳解〕〔修文〕〔最新〕〔全講〕

〔全釈〕〔全注〕

○つらしとは思ふものからこひしきは我にかなはぬ心なりけり（拾遺集・恋五・九四六・よみ人しらず／拾遺抄・恋下・三四二）―55〔角川〕

○つれづれのながめにまさる涙河袖のみぬれてあふよしもなし（古今集・恋三・六一七・としゆきの朝臣／伊勢物語・一〇七段）―37〔全注〕

○てさひやしけにとおもふにいと、しくおもひのはみはゐられさりけり（和泉式部集Ⅱ・六四二）―101〔全講〕〔考注〕〔全注〕〔角川〕

○ときはなる花とおもへばやほととぎすはなたちばなにこゑのかはらぬ（六帖・四二五二・「橘」・貫之）―9〔學術〕

○ときは山春はみとりになりぬるを 花咲里や君は恋しき（和泉式部集Ⅱ・二〇二）―4〔全講〕

○年をへてきえぬおもひは有りながらよるのたもと猶こほりけり〔古今集・恋二・五九六・ものり〕—14〔全注〕

○としのうちにあはぬためのなをたててわれたなばたにいまるべきかな〔後拾遺集・恋三・七六七・藤原道信朝臣〕—65〔全注〕

○とふことをまつに月日はこゆるぎのいそにやいでて今はうらみん〔後撰集・恋六・一〇四九・右近〕—62〔詳解〕〔修文〕〔考注〕〔最新〕

〔対校〕〔學術〕〔全注〕

○鳥の音のつらきばかりをうつつにて夢にぞこゆる逢坂の関〔新続古今集・恋三・一二八三・平貞国〕—49〔校定〕

な

○なかなかにつらきにつけてわすれなはたれもうきよをなげかさらし〔高遠集I・一二四〇〕／新後拾遺集・雑下・一四一〇—39〔全書〕

〔対校〕〔訳注〕〔全注〕

○ながからじと思ふ心は水のあわによそふる人のたのまれぬかな—8〔拾遺集・恋一・六三七・返し〕つつみの中納言のみやす所〔全注〕

○なぐさむることのはにだにかからずは今もけぬべき露の命を〔後撰集・恋六・一〇三一・よみ人しらず〕—21〔詳解〕〔岩波〕〔新註〕〔考〕

〔注〕〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔角川〕〔學術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕

〔全注〕〔笠間〕

○涙雨とふらなむわたり河水まさりなばかへりくるがに〔古今集・哀傷・八二九・小野たかむらの朝臣〕—37〔學術〕

○嘆きわび空に乱るる我が魂を結びとどめよしたがひのつま〔源氏物語・葵〕—2〔全注〕〔角川〕

○嘆きわび身をば捨つとも亡き影に浮き名ながさんことをこそ思へ〔源氏物語・浮舟〕—2〔角川〕

○なしも恋しさもあきのゆふへにとらぬは霞たな引春のあけほの〔続集・一八八〕—47〔角川〕

○なぞもかくわかれせめけんひたちなるかしまのおびのうらめしよや〔散木奇歌集・七四五〕—61〔校定〕

○何ごともいはれざりけり身のうきはおひたるあしのねのみながれて〔六帖・一六八九・うき〕—13〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕

〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔學術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全〕

〔注〕〔角川〕〔笠間〕

○涙にそぬれつゝ、しほるよの人のつらき心は袖のしつくか（貫之集Ⅰ・五七〇／伊勢物語・七五段）―88〔角川〕

○にはのまゝゆるゆるをふる夏草を分て斗にこむ人も哉（和泉式部集Ⅰ・二三）―4〔全講〕

○ぬるがうちに見るをのみやは夢といはむはかなき世をもうつつとは見ず（古今集・哀傷・八三五・みぶのただみね）―1〔詳解〕〔対校〕

○ねぬる夜の夢をはかなみまどろめばいやはかなにもなりまさるかな（古今集・恋三・六四四・なりひらの朝臣／六帖・二〇三〇・「ゆめ」／

伊勢物語・一〇三段／業平集Ⅰ・五〇などにも）―1〔校定〕、132〔筈間〕、108〔全注〕〔角川〕

は

○はかなくてわすれぬめるは夢なれやぬるとは袖を思なりけり（和泉式部集Ⅰ・五六二）―16〔全注〕

○はかなさにつけてそなく夢のよをみはてすなりし人によそへて（和泉式部集Ⅰ・六三八・世のいとさはかしきころ）―1〔考注〕〔角川〕

○はかなしとまさしくみつる夢のよをとるかてぬる我は人かは（和泉式部集Ⅱ・六一／和泉式部集Ⅴ・二〇）―1〔角川〕

○はつかりのはつかにこゑをききしより中ぞらにのみ物を思ふかな（古今集・四八一・恋一・凡河内みつね／六帖・四三七三・「雁」・みつ

ね／躬恒集Ⅰ・二〇〇、躬恒集Ⅱ・一一五、躬恒集Ⅲ・一〇三）―87〔學術〕〔角川〕

○はまかせにふねなしたるあまならてよもとはかりのことのうたかひ（和泉式部集Ⅱ・三二四）―63〔全注〕

○はるかなるきしをこそみれあまふねにのりにいてすはこきいてさらまし（和泉式部集Ⅰ・一七四）―38〔考注〕

○春雨の日をふるまゝに我宿のかきねの草はあをみわたりぬ（和泉式部集Ⅰ・一三）―4〔全講〕〔角川〕

○ひきふせてみれどあかぬはくれなゐにぬれるまゆみのみぢなりけり（古今六帖・四〇九七・「まゆみ」・つらゆき）―120〔対校〕〔全注〕

○ひくるれはしたはこくらきこのもののおそろしきなつのゆふくれ（曾根好忠集Ⅰ・一一九、曾根好忠集Ⅲ・一一二）―3〔學術〕〔角川〕

○人しれず物思ふ時は難波かたあしのそらねもせられやはする（貫之集Ⅰ・五三八／六帖・三八二〇・「葦」・貫之／躬恒集・三五四）―67

〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔角川〕〔考注〕〔最新〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔學術〕〔集成〕〔完訳〕〔新典〕〔訳注〕〔ほる〕〔新

編〕〔全訳〕〔全注〕

○人しれぬねやはたえする郭公た、あけぬよの心ちのみして（清正集・五六）―102〔詳解〕〔考注〕〔訳注〕〔対校〕〔學術〕

- 人しれぬ身はいそげども年をへてなどこえがたき相坂の関〔後撰集・恋三・七三一・これまきの朝臣〕—73〔全講〕
- 人すまずあれたるやどをきて見れば今ぞこのはは錦おりける〔後撰集・冬・四五八・枇杷左大臣／伊勢集Ⅰ・二〕—57〔角川〕
- 人にはあはむ月のなきには思ひおきてむねはしり火に心やけをり〔古今集・雑躰・一〇三〇・小野小町／小町集Ⅰ・二四〕—100〔学術〕
- 人はいさ我はなきなのをしければ昔も今もしらずとをいはむ〔古今・六三〇・もとかた〕—135〔最新〕〔全書〕〔新書〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔角川〕〔全注〕
- 人はいさ心もしらずふるさとは花ぞ昔のかにほひける〔古今・四二・春上・つらゆき／貫之集Ⅰ・七九〇〕—25〔対校〕、71〔岩波〕〔考注〕〔最新〕〔対校〕〔学術〕〔全注〕〔笠間〕、135〔岩波〕〔大系〕〔対校〕〔全講〕
- ひとごとはあまのかるもにしげくともおもはましかばよしやよのなか〔六帖・二二〇八・うらみ〕—136〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔考注〕〔最新〕〔大系〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔集成〕〔新書〕〔完訳〕〔全注〕〔学術〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔角川〕〔笠間〕
- ひとこふとはかなきしにをわれやせんみのあらばこそそのちもあひみめ〔亭子院歌合・六三二〕—35〔詳解〕
- ひとしれぬ心の内を見せたらば今までつらき人はあらじな〔拾遺集・恋一・六七二・よみ人しらず／拾遺抄・恋上・二三四・よみ人しらず〕—32〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔昭完〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔学術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- ひとしれぬ涙に袖は朽ちにけりあふよもあらばなにつつまむ〔拾遺集・恋一・六七四・よみ人しらず／拾遺抄・恋上・二三六〕—83〔学術〕〔角川〕
- 日をへつ、我なに事をおもはまし風のまへなるこのはなりせは〔和泉式部集Ⅱ・六三七〕—124〔詳解〕〔修文〕〔新註〕〔全集〕〔全講〕〔対校〕〔集成〕〔訳注〕〔全訳〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕
- ふねよせんきしのしるへもしらすしてえもこきよらぬはりまかた哉〔和泉式部集Ⅰ・八三五〕—38〔考注〕
- ふる雨にいでてもぬれぬわがそでのかけにゐながらひちまさるかな〔拾遺集・恋五・九五八・つらゆき／貫之集Ⅰ・六三二〕—42〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔講談〕〔学術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔ほる〕〔新編〕〔全訳〕〔全注〕〔角川〕

○ほととぎす花たちばなのかをとめて鳴くはむかしの人や恋しき（新古今集・夏・二四四・よみ人しらず）― 8〔校定〕

ま

○まちえたるひとよばかりをたなばたのあひみぬよはおもはましかば（後拾遺集・秋上・二四五・右大将通房）― 136〔校定〕〔新釈〕

○まちかくてつらきを見るはうけれどもうきはものはこひしきよりは（後撰集・恋六・一〇四五・よみ人しらず）― 31〔考注〕〔全書〕〔學術〕〔全注〕、55〔學術〕〔全注〕

○までといひてとまらぬあきと知りながらそらゆく月のをしくもあるかな（陽成院歌合延喜十三年九月）― 59〔學術〕

○みしひとにわすられてふるそでにこそ身をしるあめはいつもをやまね（後拾遺集・恋二・七〇三／和泉式部集Ⅰ・六三三、和泉式部集Ⅱ・

四、和泉式部集Ⅲ・四四、和泉式部集・IV七六）― 36〔校定〕〔全書〕〔全講〕

○みそれふりくもれる冬のはれすのみつきせぬものやまろか身のうき（曾禰好忠集Ⅰ・三四七）― 156〔角川〕

○みづのうへに かずかくごとき わがいのち いもにあはむと うけひつるかも（万葉集・二四三七（二四三三））― 139〔最新〕

○見ても又またも見まくのほしければなるるを人はいとふべらなり（古今集・恋五・七五二・よみびとしらず）― 118〔詳解〕〔岩波〕〔新註〕

〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔講談〕〔全書〕〔大系〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新編〕〔全訳〕〔全注〕〔角川〕

○みてもおもひみずてもおもひおほかたはわが身ひとつやものおもふやま（六帖・九二二・「山」）― 118〔笠間〕

○みなどいりの葦わけを舟さはりおほみわが思ふ人にあはぬころかな（拾遺集・恋四・八五三・人まろ／拾遺抄・二七二／万葉集二七五五

（二七四五）― 129〔詳解〕〔校定〕〔考注〕〔全書〕〔全集〕〔集成〕〔対校〕〔完訳〕〔訳注〕〔ほる〕〔新編〕〔角川〕〔全注〕〔笠間〕

○みやこ人くるればかへるいまよりはふしみのさとのなをもたのまじ（後拾遺集・雑五・一一四六（一一四七）・橘俊綱）― 132〔新編〕

○みよしのの山のあなたにやどもがな世のうき時のかくれがにせむ（古今集・雑下・九五〇・よみ人しらず）― 101〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔昭

完〕〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔講談〕〔學術〕〔全書〕〔大系〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔全講〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕

〔ほる〕〔新編〕〔全訳〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕

○みる程は夢もたのまるはかなきはあるとてすくす也けり（和泉式部集Ⅰ・二六八）― 1〔全講〕〔角川〕

- み山木のかけのこ草は我なれや露け、れともしる人もなし（伊勢集Ⅱ・四三八／伊勢集・Ⅲ四七六）— 84〔角川〕
- めぐり逢はむかぎりだになき別れかな空ゆく月のはてを知らねば（狭衣物語・卷四）— 99〔校定〕〔講談〕〔全注〕
- ものいはばとふべきものをものはないくよかへたるたきのしらいと（後拾遺集・雜四・一〇五六・弁のめのと）— 6〔角川〕
- ものおもへばいもねられぬをあやしくもわするることを夢に見るかな（六帖・二〇四九・「夢」）— 67〔新註〕〔叢書〕〔講談〕〔全注〕

や

- やすらはでたつにたてうきまきのとをさしもおもはぬ人もありけり（後拾遺集・雜二・九一〇・和泉式部）— 19〔全注〕
 - やすらはでねなましものをさよふけてかたぶくまでの月をみしかな（後拾遺集・恋二・六八〇・赤染衛門／赤染衛門集Ⅰ・四）— 19〔対校〕、81〔學術〕
 - 夕ぐれは雲のはたてに物ぞ思ふあまつそらなる人をこふとて（古今集・恋一・四八四・よみ人しらず）— 142〔全注〕〔角川〕
 - 夕暮に物おもふ事はまさるか和我ならさらむ人にとは、や（和泉式部集Ⅰ・七一九）— 18〔學術〕
 - 夕暮は物ぞ悲しきかねのをとを あすも聞へき身とししらねは（和泉式部集Ⅰ・三五五、和泉式部集Ⅲ・一三六、Ⅳ・二四二）— 142〔學術〕
 - 夢よりもはかなきものはかげるふのほかに見えしかげにぞありける（拾遺集・恋二・七三三・よみ人しらず／拾遺抄・恋上・二六三）— 1〔全講〕〔角川〕〔笠間〕
 - 夢よりもはかなき物は夏の夜の暁がたの別なりけり（後撰集・夏・一七〇・壬生忠岑）— 1〔全講〕〔集成〕〔新典〕〔角川〕〔笠間〕
 - よがたりに人やつたへんたぐひなくうきみをさめぬゆめになしても（源氏物語・若紫）— 15〔學術〕
 - よそながら思ひしよりも夏の夜の見はてぬ夢ぞはかなかりける（後撰集・夏・一七一・よみ人しらず）— 15〔學術〕〔角川〕
 - よそにてもおなし心に有明の月みはそらそかきくもらまし（和泉式部集Ⅱ・五九九）— 56〔考注〕〔全注〕
 - 世とともに流れてぞ行く涙河冬もこほらぬみなわなりけり（古今集・恋二・五七三・よみ人しらず）— 16〔校定〕〔全注〕
 - 夜な夜なはめのみさめつつおもひやるこころやゆきておどろかすらん（後拾遺集・七八五・恋四・道命法師）— 115〔校定〕〔岩波〕〔最新〕
- 〔全書〕〔大系〕〔全講〕〔新書〕〔訳注〕〔集成〕〔対校〕〔新典〕〔學術〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔角川〕

○世にふればうさこそまされみよしのいはのかけみちふみならずしてむ (古今集・雑下・九五二・よみ人しらず) — 101 [校定]

○世にふれば事のはしげきくれ竹のうきふしごとと驚ぞなく (古今集・雑下・九五八・よみ人しらず) — 163 [対校]

○世間はいかに成ゆく物とてか心のとかにをとつれもせぬ (和泉式部集Ⅰ・一八四/和泉式部集Ⅱ・二三二、四三六 (重出)) — 34 [全訳]

○世中のうきたびごとに身をなげばふかき谷こそあさくなりなめ (古今集・雑躰・一〇六一・よみ人しらず) — 75 [詳解] [岩波] [昭完] [新

註] [考注] [叢書] [最新] [大系] [全書] [全講] [全集] [対校] [新書] [講談] [学術] [集成] [完訳] [訳注] [新典] [ほる] [新編]

[全訳] [全注] [角川]

○よのうきめ見えぬ山ちへいらむにはおもふ人こそほだしなりけれ (古今集・雑下・九五五) — 72 [校定] [詳解] [修文] [考注] [最新] [全書] [全講] [学術] [全注] [角川]

○夜も明けばきつにはめなでくたかけのまだきに鳴きてせなをやりつる (伊勢物語・一四段) — 50 [校定] [全訳]

○よもすがらくひなよりけになくなくぞ真木の戸口にたたきわびつる (紫式部日記) — 30 [修文] [全注]

○よるともねられざりけり人しれずねざめのこひにおどろかれつつ (拾遺集・恋三・八〇一・よみ人しらず) — 66 [学術]

○よるはさめひるはなかめにくらされてははこのめそいとなかりける (一条撰政御集・一三二) — 80 [校定]

○世をすてて山にいる人山にても猶うき時はいづちゆくらむ (古今・九五六・雑下・凡河内みつね/躬恒集Ⅰ・二七五、躬恒集Ⅱ・一七三、躬恒集Ⅲ・二九九) — 134 [集成] [学術] [訳注] [ほる] [全注]

わ

○わがいはみわの山もとこひしくはとぶらひきませすぎたてるかど (古今集・雑下・九八二・よみ人知らず) — 147 [学術] [全注]、148 [角川]

○わかことやわひしかるらんさはりおほみあしまわけつるふねの心地は (一条撰政御集・四三、一七四 (重出)) — 129 [角川]

○わがこふるいもにあひさすたまのうらにころもかたしきひとりかもねん (六帖・一八九四・「うら」) — 161 [角川]

○わがやどに はなぞさきたる そをみれど こころもゆかず はしきやし いもがありせば みかもなす ふたりならびぬ たをりても

みせましものを うつせみの かれるみにあれば つゆしもの …………… (万葉集・四六一・家持) — 52 [対校]

- わがやどの梅にならひてみよしの山の雪をも花とこそ見れ〔拾遺集・春・九・よみ人しらず〕―159〔學術〕
- わがをかのおかみにいひてふらしめしゆきのくだけしそこにちりけむ〔万葉集・卷二・一〇四〕―107〔學術〕
- わが思ふ人は草葉のつゆなれやかくれば袖のまづそほつらむ〔拾遺集・恋二・七六一・よみ人しらず〕―58〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔昭完〕
- 〔修文〕〔新註〕〔考注〕〔叢書〕〔最新〕〔大系〕〔全書〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔學術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- わか心なつの、へにもあらなくに しけくも恋のなり増るかな〔和泉式部集Ⅱ・九九〕―4〔考注〕〔全講〕〔新典〕
- わが袖にまだき時雨のふりぬるは君が心に秋やきぬらむ〔古今集・恋五・七六三・読人しらず〕―85〔校定〕〔學術〕〔角川〕
- わするなよほどは雲ゐに成りぬともそら行く月の廻りあふまで〔拾遺集・雑下・四七〇／拾遺抄・五二八／伊勢物語・一段〕―99〔校定〕
- 〔詳解〕〔岩波〕〔昭完〕〔修文〕〔考注〕〔全集〕〔集成〕〔新典〕〔新書〕〔完訳〕〔全講〕〔學術〕〔訳注〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕
- わすれては夢かと思ふおもひきや雪ふみわけて君を見むとは〔古今集・雑下・九七〇・なりひら朝臣／伊勢物語・八三段〕―64〔対校〕
- 我見てもひさしく成りぬ住の江の岸の姫松いくよへぬらむ〔古今集・雑上・九〇五・よみ人しらず〕―153〔校定〕〔詳解〕〔岩波〕〔新註〕
- 〔考注〕〔最新〕〔全書〕〔大系〕〔全講〕〔全集〕〔対校〕〔新書〕〔完訳〕〔訳注〕〔ほる〕〔新編〕〔全釈〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕
- をきながらあかせるしものあしたよりまされる物はよるなかりけり〔和泉式部集Ⅰ・四〇九〕―143〔全注〕

漢籍・仏典出典一覧

- 1 浮生短於夢〔白氏文集・野行〕〔學術〕
- 4 青青河畔草 鬱鬱園中柳 蕩子行不歸 空牀難獨守〔文選・卷二十九・雜詩・古詩十九首〕〔學術〕〔全注〕〔角川〕
- 4 王孫游兮不歸 春草生兮萋萋〔楚辭・招草子〕〔全注〕
- 4 滔滔孟夏 草木莽莽〔楚辭・九章〕〔全注〕
- 9 況我連枝樹 与子同一身〔文選・蘇武・四首詩其一〕〔學術〕

41 蕭々暗雨窓打声（白氏文集・上陽白髮人／和漢朗詠集・二二三）〔學術〕〔集成〕〔完訳〕〔訳注〕〔新典〕〔ほる〕〔新編〕〔全注〕〔角川〕
〔笠間〕

43 寒閨独臥夫聲（和漢朗詠集・七八五）〔學術〕〔角川〕

50 打殺長鳴鷄彈去（樂府・讀曲歌）〔最新〕〔全書〕〔全講〕〔學術〕〔集成〕〔新編〕〔全注〕〔角川〕〔笠間〕

76 法山欲頽、法船欲沈……（涅槃經・一九）〔対校〕

77 従冥入於冥、永不聞仏名……（法華經・化城喻法）〔対校〕〔學術〕〔完訳〕〔ほる〕〔新編〕〔全注〕

91 谷水洗花、汲下流而得上壽者三十余家（和漢朗詠集・二六八）〔考注〕

107 鴛鴦ノ瓦ハ冷ヤカニシテ霜華重ク 翡翠ノ衾ハ寒クシテ誰ト共ニセシ（白氏文集・長恨歌）〔角川〕

110 衆罪ハ霜露ノ如シ慧日能ク消除ス（觀普賢經）〔學術〕〔角川〕

112 衆罪ハ霜露ノ如シ慧日能ク消除ス（觀普賢經）〔學術〕〔角川〕

124 壽命ハ猶風前ノ灯燭ノ如シ（俱舍論）〔校定〕〔岩波〕〔大系〕〔全集〕〔新書〕〔全講〕〔完訳〕〔ほる〕〔新編〕〔角川〕〔全注〕〔笠間〕

156 是ノ如キ増上慢ノ人、退クモ亦佳シ（法華經・方便品）〔角川〕

『和泉式部日記』引歌・漢籍索引（一）（二）正誤表

82 〔誤〕…六帖・二八二九・「月をまつ」↓〔正〕六帖・二八二九・「人をまつ」

113 〔誤〕…和泉式部集Ⅳ・二二一↓〔正〕…和泉式部集Ⅳ・二二一〔全注〕

136 〔誤〕…拾遺抄・九六↓〔正〕…拾遺抄・九六〔昭完〕

136 〔誤〕…右大将通房〔校定〕↓〔正〕…右大将通房〔校定〕〔新釈〕

163 〔誤〕163 くれ竹の↓〔正〕164 くれ竹の

164 〔誤〕164 いまかの北の方に↓〔正〕165 いまかの北の方に

165 〔誤〕165 正月一日↓〔正〕166 正月一日